



3



4



5

6



7



地域づくり  
クローズアップ

KOGE  
友枝発

選ばれた記事は、編集長がパソコンでレイアウト作業を行っています。読者に現場の様子が伝わるように、写真を大きく使ったり、愛着が湧く新聞になるように、今田孝行編集委員の手書きの挿絵を使ったりと様々な工夫がされています。

このようにして完成された瓦版は、現在、友枝地区の各世帯に無料配布されています。配布には、各自自治会長が協力してくれているため、友枝地区の各世帯にスムーズに配布できそうです。

地域づくり活動事業の補助金を活用し、友枝地区への無料配布は可能となっています。この補助金が無くなってしまうと、瓦版の発行を継続するために、年間1,000円の有料購読層の拡大と、広告収入(1枠5,000円)の増額を目指しています。

現在、有料購読者の数は76名。その多くは町外で暮らす上毛町出身の方々です。遠くは富山県、茨城県など全国各地に瓦版が届けられています。遠くに住んでも地域の様子が伝わってくる瓦版はとても喜ばれ、少しずつその数が増えてきています。中には、町内に住む方が、町を離れて暮らす息子や娘に、町の様子を伝えるために有料購読者になり、瓦版を郵送している方もいるそうです。

編集長は、瓦版を有料購読者のもとに郵送する際には、必ず友枝の季節が伝わる風景写真や最近の出来事を記した手紙を添えています。これは、



1

### 心温まる記事を皆さんに届けること

2月28日(月)に、たいへいの里会議室に集まったのは、編集長常慶忠一さんをはじめ編集委員の皆さん。この日は、わくわく友枝瓦版第11号(3月1日発行)発行のための最後の仕分け作業でした。

編集長から作業内容が説明され、印刷された1,000枚の瓦版の仕分け作業が開始されました。出来上がったばかりの最新号の瓦版を拝見すると、どんど焼きや、あんな人・こ

んな人コーナー」など、友枝地区を中心とした心温まる記事がたくさん掲載されていました。

この記事を書くために、編集長と編集委員は手分けをして地域の行事を取材しています。そして、取材した人が記事を書き編集長に提出する仕組みです。発行の度に悩むことは、記事が多く掲載しきれないことで、毎回編集会議を開いて掲載する記事を選定しているそうです。

単に有料購読のお礼だけでなく、町を離れていても友枝地域を好きであってほしいという願いが込められているように感じられました。

**郷土愛そして、地域を動かす原動力へ**

編集委員の皆さんは、取材先での出会いや愛読者とのふれあい等、いろいろな「縁」が生まれることに喜びを感じています。また、人と人とのつながりから、新しい発見があり、地域の掘り起こしにつながっているそうです。

読者に共感してもらえるような記事を掲載し続けることで郷土愛を深め、その愛情が地域を動かす原動力になってくれることを、編集委員の皆さんは願っています。

**わくわく友枝瓦版**

発行部数 / 1000部

発行月 / 6,9,12,3月(年4回)

配布先 / 友枝地区の各世帯、公共施設等

友枝地区以外の有料購読者 / 76名(3月1日現在)

購読料 / 年間 1,000円

※友枝地域以外の話題を提供してくれる連絡委員を募集しています。

■問い合わせ先  
友枝新聞発行し隊  
編集長 常慶忠一 TEL 84-7566

- 2 編集長の常慶忠一さん
- 3 仕分け作業をする編集委員の皆さん
- 4 取材活動のため、地域の行事に積極的に参加する会員の皆さん
- 5 地区ごとに仕分けされた瓦版
- 6 有料購読者には記念切手を貼って郵送
- 7 土佐井自治会長中森勝さんに瓦版を届ける原田義治さん



このままではいけないという郷土愛の醸成へ

友枝の各地で行われている行事や活躍している人などを取材し、地域に密着した情報を伝え続けている「友枝新聞発行し隊」。年4回発行されるA3両面フルカラー印刷の「わくわく友枝瓦版」には、「読者の共感を呼び、地域の連帯感やこのままではいけないという郷土愛の醸成へとつながってほしい」という強い願いが込められていました。